



2024年3月期 第2四半期（2023年4月～9月） 決算説明資料



株式会社MCJ

2023年11月2日

2024年3月期 第2四半期（4月～9月）における主なトピックス

業績サマリー

□ 上半期としての過去最高の営業利益を更新

- 上半期売上総利益、売上総利益率及び営業利益の各項目で過去最高を更新
- 第2四半期会計期間（7月～9月）としても各利益は過去最高を更新
- 第2四半期会計期間営業利益は前年同期比21%を超える増益

業績に係る
トピック

□ パソコン関連事業はiiyamaが業績を牽引

- 国内パソコン関連事業は急激な円安傾向等に伴う原材料・部材価格高騰や軟調な国内PC需要を受け前年同期比減収減益
- 海外パソコン関連事業は好調に推移。期初予想時点では減収減益想定の中州モニタ事業（iiyama）は、想定通り前年同期比減収も各利益は上半期としての過去最高を達成。東南アジア事業（R-Logic）も前年同期比増収増益にて上半期としての過去最高の営業利益を達成

□ 総合エンターテインメント事業は1Qに続き営業黒字が継続

- コロナ禍における構造改革や営業施策の結果、前年同期比増収増益
- セグメントとして上半期過去最高の営業利益を計上

□ 業績は期初想定を上回り推移し、前年同期比減収も大幅な増益を達成

- 各利益が期初予想を上回り、2023年10月26日に上半期業績予想を上方修正

その他
トピックス

□ 「JPX日経インデックス400」構成銘柄に4年連続で選定

□ 注力するESG活動にてiiyamaが欧州EcoVadis社サステナビリティ調査にてプラチナステータスを獲得

1. 第2四半期連結業績報告**3 - 1 8**

2. その他のトピックス

2 0 - 2 2

3. 通期見通し

2 4 - 2 6

連結業績サマリー (1/2)

M

C
J

M

C
J□ 上半期として**過去最高の営業利益**を更新4月～9月
累計期間

- 売上高： 884億円 (前年同期比 7.1%減)
- 営業利益： 85億円 (同 18.4%増)
 - 前年同期比減収も利益重視の施策を展開し増益を確保
 - 売上総利益が率・額ともに過去最高を更新し、営業増益を牽引

2024年
3月期
第2四半期

実績

7月～9月
会計期間□ 第2四半期会計期間として**各利益は過去最高**を更新

- 売上高： 429億円 (前年同期比 3.8%減)
- 営業利益： 38億円 (同 21.4%増)
 - PC関連事業は海外事業（欧州、東南アジア）の好調が業績を牽引
 - 総合エンターテインメント事業も前年同期比増収増益にて業績回復が継続

連結業績サマリー (2/2)

売上高は1Qに続き期初想定通りに減収も、事業環境を鑑みた利益重視スタンスを継続し、各利益共に増益。上半期として過去最高の営業利益となる

(百万円)	会計期間 (7月~9月)			累計期間 (4月~9月)		
	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
売上高	44,633	42,945	△3.8%	95,248	88,440	△7.1%
営業利益	3,136	3,807	21.4%	7,249	8,582	18.4%
経常利益	3,515	3,798	8.1%	7,391	8,528	15.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,461	2,848	15.7%	5,190	6,227	20.0%

- 軟調なユーザー需要の継続、過度な円安傾向の継続による厳しい調達環境下においても、前年同期比で16%を超える営業増益の第1四半期に続き、第2四半期会計期間も21%を超える営業増益を達成

参考) 第2四半期 (4月~9月) 連結業績予想に対する達成率及び進捗

上半期は前年同期比減収減益の期初予想。想定通り減収も各利益は期初想定を大幅に上回り着地

(百万円)	上半期連結業績予想に対する達成率			
	2024年3月期 第2四半期累計期間 実績	2024年3月期 第2四半期累計期間 業績予想	達成率	(参考)2023年3月期 第2四半期累計期間 実績
売上高	88,440	90,800	97.4%	95,248
営業利益	8,582	6,900	124.4%	7,249
経常利益	8,528	6,900	123.6%	7,391
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,227	5,000	124.6%	5,190

売上高はほぼ
期初予想の範囲
内にて推移

各利益は海外
PC関連事業と
総合エンターテイ
ンメント事業が期
初予想比大幅な
増益にて牽引

第2四半期（4月～9月）連結損益計算書

事業環境を鑑みた**利益重視施策を展開**
 上半期として**過去最高の売上総利益、売上総利益率及び営業利益**を計上

(百万円)	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	95,248	100.0%	88,440	100.0%	△ 6,807	△7.1%
売上原価	74,288	78.0%	65,999	74.6%	△ 8,289	△11.2%
売上総利益	20,959	22.0%	22,441	25.4%	1,482	7.1%
販売費 及び一般管理費	13,709	14.4%	13,859	15.7%	149	1.1%
営業利益	7,249	7.6%	8,582	9.7%	1,332	18.4%
経常利益	7,391	7.8%	8,528	9.6%	1,136	15.4%
税金等調整前 当期純利益	7,386	7.8%	8,684	9.8%	1,298	17.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,190	5.4%	6,227	7.0%	1,037	20.0%

期初想定通りに減収

マウス、ユニットコム、iiyama他が前年同期比で売上総利益率が上昇。
過去最高の売上総利益率となる

事業環境を鑑みて広告宣伝費などを抑制し、全体費用をコントロール

高い売上総利益率の確保と販管費抑制により、営業利益は上半期として過去最高を達成

第2四半期（7月～9月）連結業績推移グラフ

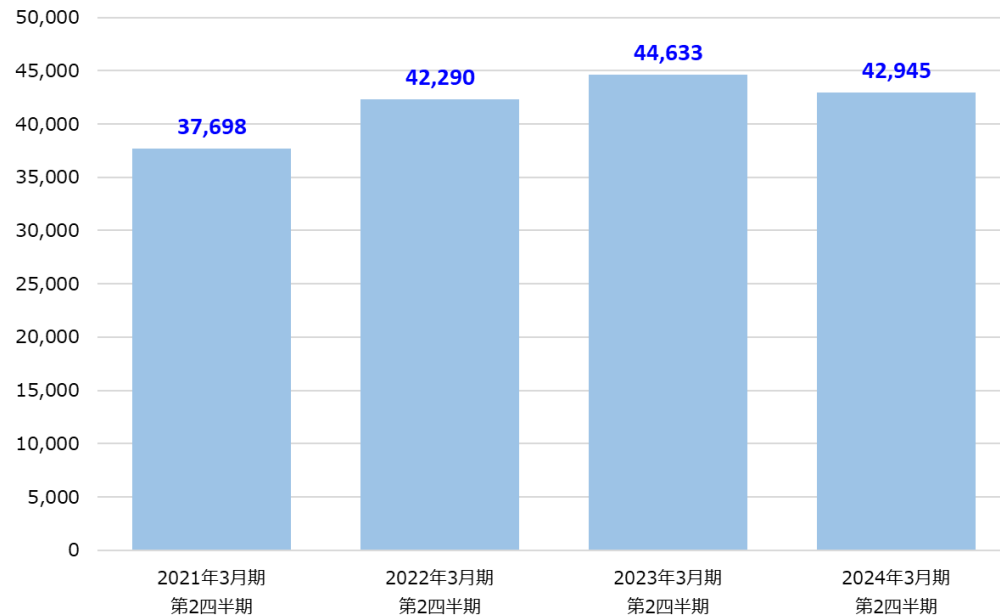
厳しい事業環境にもかかわらず売上高は高水準を維持
利益重視スタンス継続の結果、過去最高の営業利益を達成

「売上<利益」の施策により前年同期比減収も、第2四半期としての売上高は前期に続く過去2番目の水準

厳しい事業環境下も海外PC関連事業及び総合エンターテインメント事業の増益により過去最高の営業利益を達成

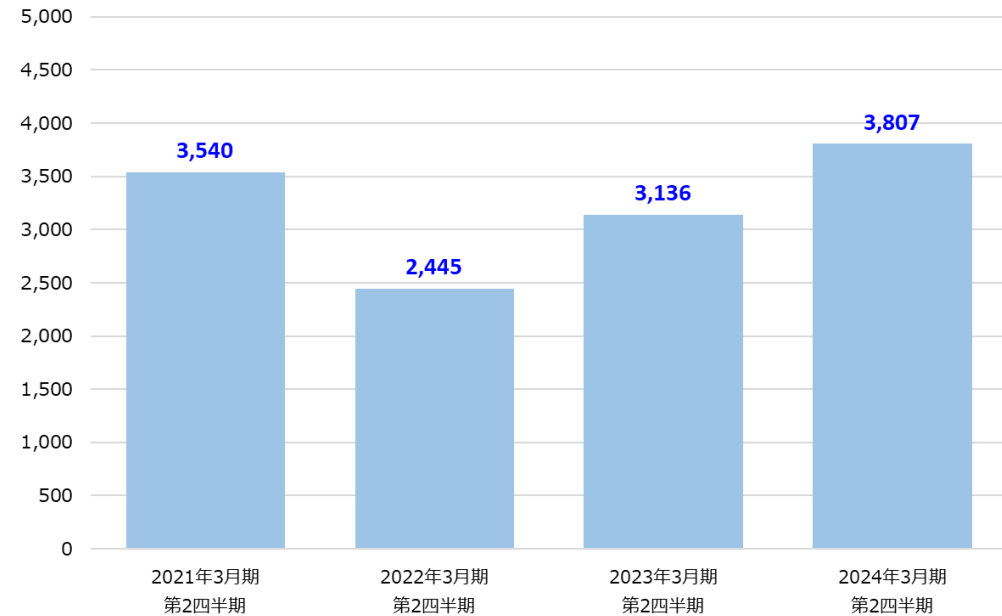
(単位：百万円)

売上高推移



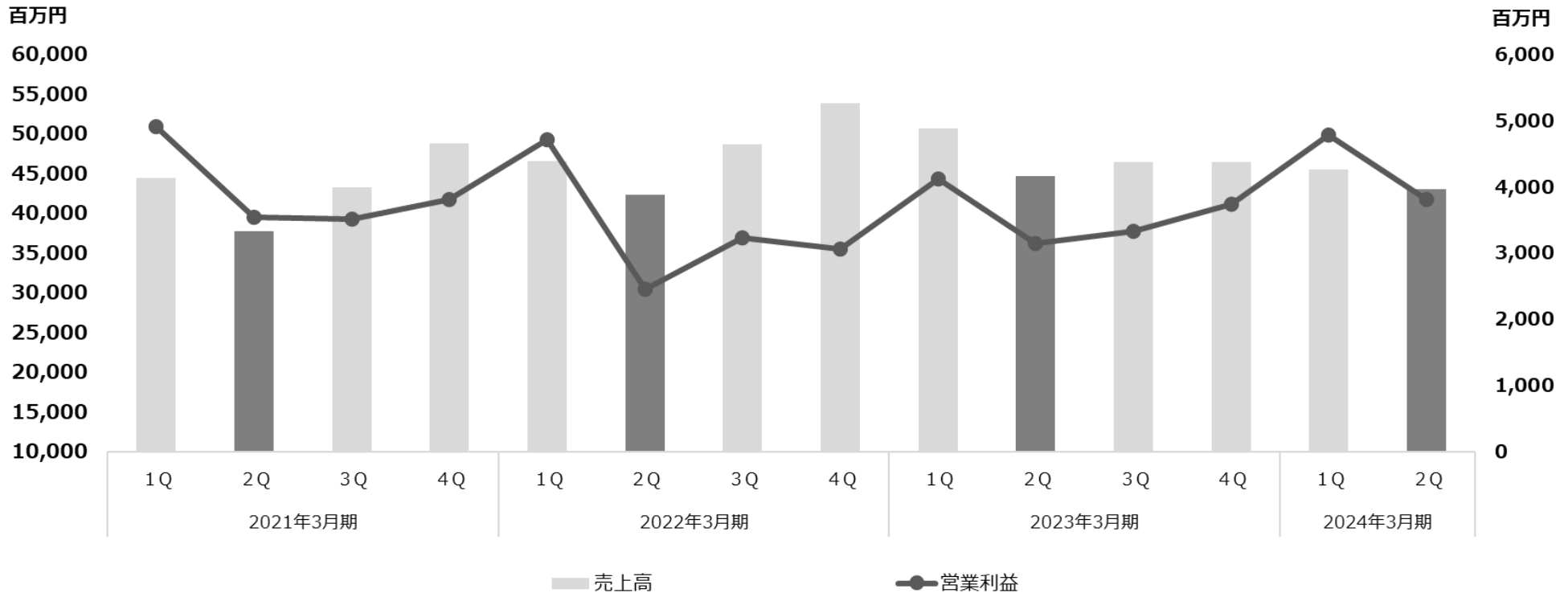
(単位：百万円)

営業利益推移



第2四半期（4月～9月）連結業績推移

四半期売上高は400億円超えを継続し、高水準を維持
 営業利益も2Q過去最高更新のみならず、四半期利益としても高水準の38億円を達成



(百万円)	2021年3月期				2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	44,420	37,698	43,253	48,799	46,473	42,290	48,627	53,855	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945
営業利益	4,900	3,540	3,514	3,803	4,702	2,445	3,230	3,057	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807

セグメント情報 第2四半期 4月～9月実績

パソコン関連事業

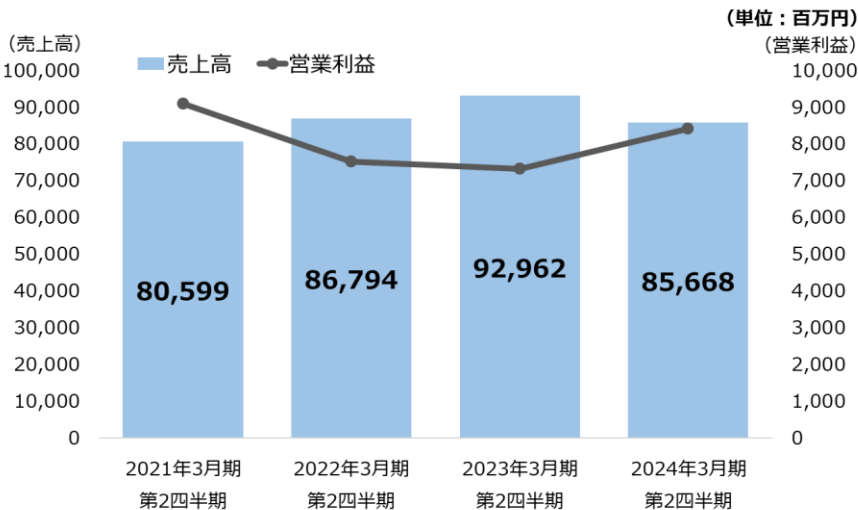


➤ 売上高 856億円（前年同期比7.8%減）

- 国内パソコン関連事業は市場全体が低調に推移し、各社共に前年同期比減収
- 海外パソコン関連事業（1月～6月）は、iiyamaは減収もR-Logicの増収基調は継続
- 各社ともに概ね期初想定通りの結果となる

➤ 営業利益 83億円（同14.7%増）

- 厳しい事業環境を受け、国内パソコン関連事業は**期初想定通り前年同期比減益**
- 海外パソコン関連事業は、**iiyama、R-Logicともに前年同期比大幅増益し、過去最高益を更新**

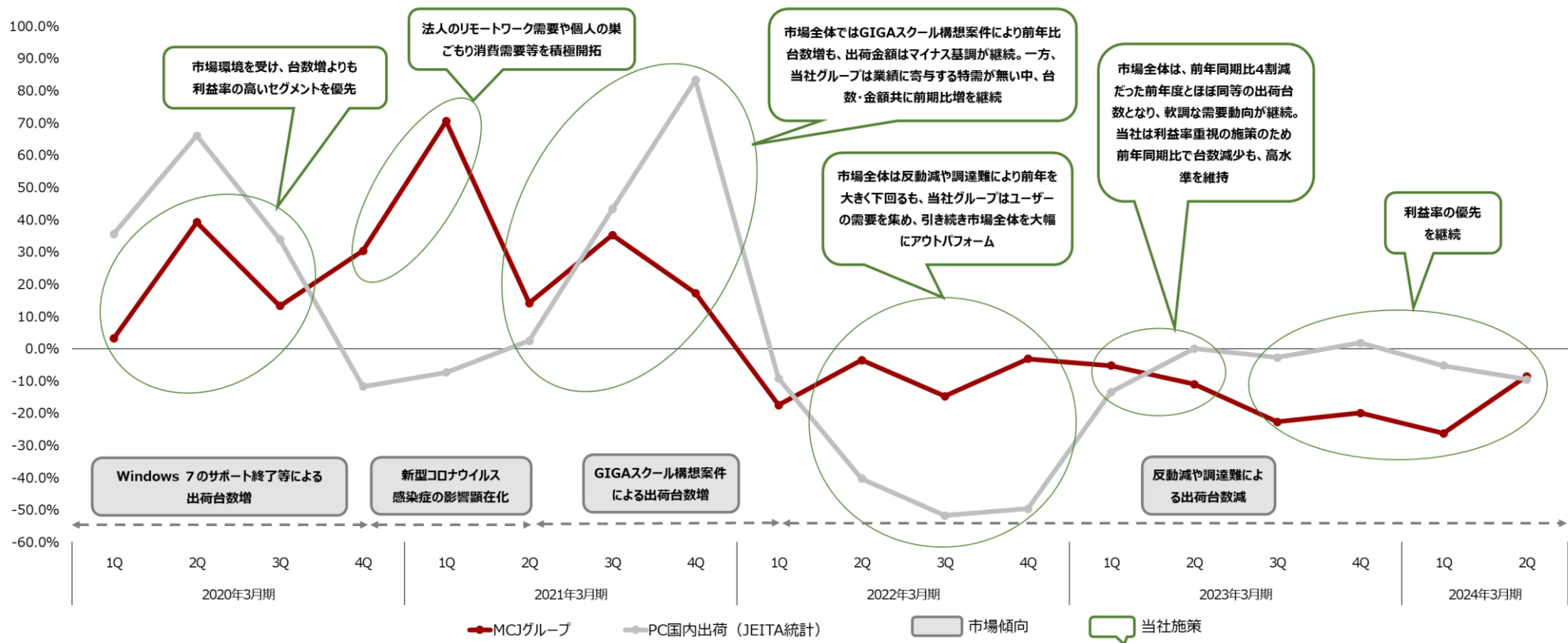


パソコン関連事業 (百万円)	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
	売上高	92,962	97.6%	85,668	96.9%	△ 7,294
営業利益	7,319	101.0%	8,396	97.8%	1,076	14.7%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

国内パソコン出荷台数増減率の推移

市場全体は特需の反動減や経済環境などにより、上半期では低調な需要動向が4年連続で継続
 当社グループは事業環境を鑑みて【売上、出荷台数<利益】スタンスを継続



※ 上記グラフは、四半期（会計期間）ごとの出荷台数実績を前年同期と比較したものです。

主要子会社トピックス【マウスコンピューター】



PC及び周辺機器の開発・製造・販売

第2四半期 4月～9月実績

(百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
売上高	26,859	23,146	△13.8%
営業利益	1,915	1,859	△2.9%
経常利益	1,370	1,497	9.3%
当期純利益	897	973	8.4%

- 事業環境を受け、売上高は**期初想定通り前年同期比減収**
- 販売台数減も、底堅い高単価PC需要や価格転嫁により、**販売単価上昇**は継続
- 利益重視施策により、**売上総利益率は前年同期比で上昇**し、**期初想定通りの水準**となる
- 以上の結果、営業利益は前年同期比で小幅な減益にて着地

主要子会社トピックス【マウスコンピューター】



強みのある分野を更に強化

#ゲーミングPC新ブランドを立ち上げ

- G-Tuneに続くゲーミングブランド「NEXTGEAR」



- 販売は好調に推移。2QのゲーミングPC前期比販売増に貢献

30周年企画を実施

#ユーザー利便性を更に強化



- 送料無料化を実施

<p>パソコン本体</p> <p>送料無料 代引き + 2,200円(税込)</p>	+	<p>ディスプレイ</p> <p>送料無料 代引き + 0円</p> <p>パソコン本体と同時購入の場合</p>	+	<p>プリンター</p> <p>送料無料 代引き + 0円</p> <p>パソコン本体と同時購入の場合</p>
---	---	---	---	--

	送料および手数料	代金引換をご希望の場合
パソコン本体 (デスクトップ・ノート共通)	送料無料 <small>(※アウトレットや別途明示されている場合を除く)</small>	1台につき +2,200円(税込)
ディスプレイ	パソコン本体と同時購入の場合 送料無料	1台につき +0円
プリンター	パソコン本体と同時購入の場合 送料無料	1台につき +0円
上記以外の製品	商品により異なります。 <small>(※自動見積の場合、商品価格に含まれています)</small>	商品により異なります。 <small>(※自動見積の場合、商品価格に含まれています)</small>

- 無償保証期間を延長

3年間

← Made in Japanの製品品質に自信あり

に標準無償保証期間が変わりました!

標準無償保証3年間
(2023年4月11日～)

従来

↑

+2年間

マウスコンピューターのすべてのデスクトップパソコン・ノートパソコンが対象
※一部対象外の製品がございます。詳細は以下ページ情報をご確認ください。

主要子会社トピックス【ユニットコム】

UNITCOM

オリジナルPC、PCパーツ、周辺機器等の販売

第2四半期 4月～9月実績

(百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
売上高	21,494	20,535	△4.5%
営業利益	133	△ 79	-
経常利益	164	△ 104	-
当期純利益	92	△ 103	-

- ❑ マウス同様に売上高は前年同期比減収も**売上総利益率は前年同期比上昇**
- ❑ ゲーミングPC等の**高単価PCは前年同期比で売上増**も、一般用途向けPCの販売低調により減収
- ❑ 店舗運営コスト増、拠点整備コスト等による販管費増により営業赤字
- ❑ 下半期での業績回復を目指す

《中計方針に則り拠点網の整備・拡大を継続》
新規店舗オープン、移転、閉店、拠点統廃合等を実施



《製品販売チャネルを拡充》
ふるさと納税での取り扱い開始



パソコン工房
ふるさと納税
愛知県岡崎市で
スタート!!



主要子会社トピックス【テックウインド】



PC及びPC周辺機器パーツの卸売・販売

第2四半期 4月～9月実績

(百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
売上高	20,363	18,169	△10.8%
営業利益	780	448	△42.5%
経常利益	1,046	523	△50.0%
当期純利益	723	356	△50.7%

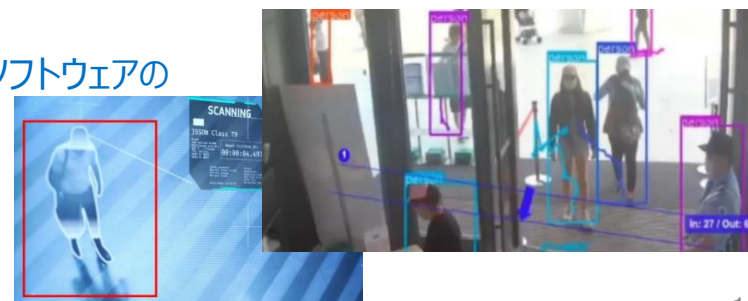
- 期初想定通りに前年同期比減収減益も、売上高・営業利益共に**期初想定を上回り着地**
- 過度な円安傾向の継続により、利益率もマイナスの影響を受ける
- 引き続き新たな商材発掘や事業立ち上げを通じ、収益性を重視した運営を行い安定成長を目指す

《中計方針におけるソリューション分野の強化・育成》

自社組み込みソリューションサービスとして顔認証AIシステムの取り扱い開始



AI映像解析ソフトウェアの取り扱い開始



主要子会社トピックス【iiyama】



モニタの開発及び販売（欧州モニタ事業）

第2四半期 1月～6月実績*

(百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
売上高	30,063	26,761	△11.0%
営業利益	4,332	5,900	36.2%
経常利益	4,631	6,300	36.1%
当期純利益	3,490	4,693	34.5%

- コロナ禍からの反動減や厳しい経済環境などにより市場全体が軟調に推移する中、堅調な出荷を維持
- 原材料価格下落等を受け販売単価低下も、仕入原価削減により売上総利益率は上昇
- 以上の結果、売上高は前年同期比減収も **各利益は上半期としての過去最高**を達成

主要子会社トピックス【iiyama】



【経済活動再開に伴う需要の変化等に対応した製品展開、エリア展開を行う】

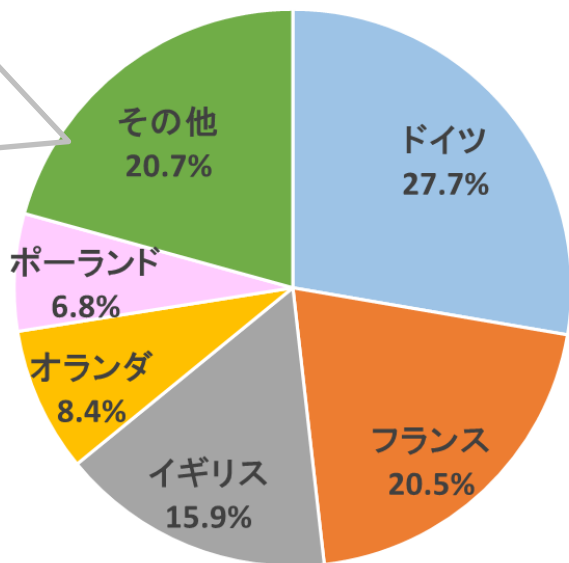
第2四半期 1月～6月実績*

事業展開国別の売上構成比

主要展開国全般において出荷台数は堅調を維持

iiyama 国別売上構成比

ポーランド等の一部国においては前年同期比増収を達成。ロシア及び経由した周辺国への販売は昨年2月以降ストップ。



販売動向

引き続き産業用モニタを中心に好調を維持



* 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、当第2四半期累計期間においては1月～6月の業績を連結上組み込んでおります

主要子会社トピックス【R-Logic】

RLOGIC

アジア地域におけるPC及びIT機器の修理・サポート

第2四半期 1月～6月実績*

(百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
売上高	1,557	1,958	25.8%
営業利益	136	173	27.1%
経常利益	201	203	1.1%
当期純利益	137	149	8.9%

- 既存事業、コロナ禍において立ち上げた新規事業共に好調に推移し、**前年同期比増収増益基調が継続**
- 顧客基盤の拡大に加え、単価アップ施策等を併せて実施。収益の継続的な拡大を図る
- 前期に続きインド事業が全体の業績を牽引
- コロナ禍において実施した各種構造改革の成果もあり、買収後過去最高の営業利益を達成した前期から、更に増益基調が継続。**上半期として過去最高の営業利益**を計上

《中計方針における製造分野への進出》

自動車関連部品の基板製造などを受託。顧客基盤の拡大を図る



※ 外国法人としてのR-Logicは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、当第2四半期累計期間においては1月～6月の業績を連結上組み込んでおります

セグメント情報 第2四半期 4月～9月実績

□ **総合エンターテインメント事業**：株式会社aprecio、株式会社MID
【ネットカフェ、24時間フィットネス、接骨院・整体院、ホテル運営事業】

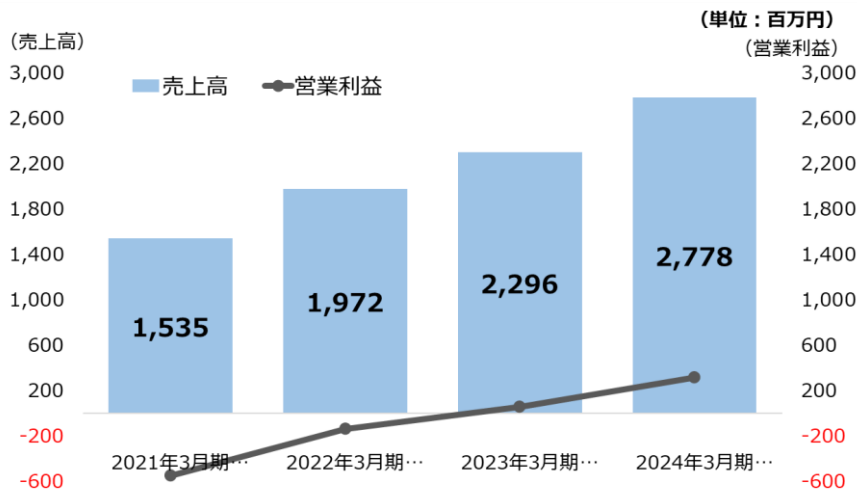


➤ **売上高 27億円（前年同期比21.0%増）**

- コロナによる規制撤廃等を受け、提供する各種サービスの利用人数が継続して上昇
- 主力のネットカフェ事業、24時間フィットネス事業を中心に**増収を達成**

➤ **営業利益 3億円（同467.7%増）**

- **ネットカフェ事業の収益回復・拡大が継続**。注力事業である**24時間フィットネス事業も引き続き好調**
- コロナ禍に実施した構造改革の効果もあり、セグメントとして**上半期過去最高の営業利益を達成**



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
	売上高	2,296	2.4%	2,778	3.1%	482
営業利益	55	0.8%	313	3.6%	257	467.7%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

1. 第2四半期連結業績報告	3 – 18
2. その他のトピックス	20 – 22
3. 通期見通し	24 – 26

中期経営計画進捗サマリー



	目標値	実績	
2024年 3月期 第2四半期 4月～9月	営業利益率	7%以上	<u>9.7%</u>
	ROIC	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	ROE	15%程度以上	<u>通期にて開示予定</u>
	配当性向	30%以上	<u>33.3% (計画)</u>
	DOE	4.5%程度	<u>通期にて開示予定</u>
	総還元性向	30～40%程度	<u>通期にて開示予定</u>
事業運営 方針	<p>□ 足元の事業環境や中計方針に則り以下方針にて着実な成長を狙う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【国内PC事業】：利益重視スタンスにて手堅く運営しつつも、将来の成長基盤強化に向けた各種施策を着実に実施 ● 【海外PC事業】：変わりつつある環境に臨機応変に適応し収益基盤強化 ● 【総合エンターテインメント事業】：伸ばせる事業へ注力。黒字化定着図る 		

本年度上半期における関連活動及び実績一例紹介

Environment

EcoVadis 社（本社：フランス）のサステナビリティ調査

- 環境に配慮した事業運営が評価され、iyiyamaが最高ランクである『プラチナ』評価を獲得
- 10万社以上にのぼる評価対象企業の上位1%に入る高い評価



Social

ダイバーシティの更なる推進

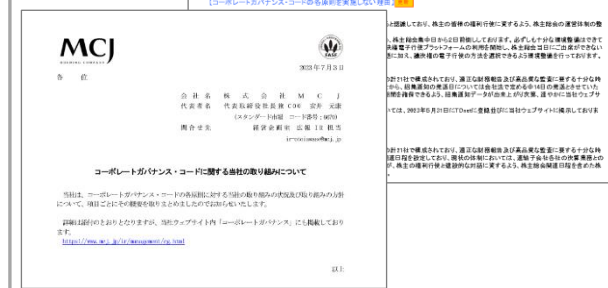
- 取締役会の半数は独立役員。女性社外取締役、外国人社外取締役も在籍
- 管理職に占める女性比：14%（2023年3月末時点）

2022年3月末の10%から上昇し、2026年3月末比率の目標達成に向け進捗

Governance

コーポレートガバナンス報告書を改定

- 2023年7月、当社グループのCG報告書等を更新



JPX日経インデックス400に4年連続で選定される



- 東京証券取引所及び日本経済新聞社が共同で算出する「JPX日経インデックス400」へ選定
 - » 当社は2020年度に初めて選定される
 - » その後、**本年度含め4年連続で再選定**
- 当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります



2023年8月8日

各 位

会社名 株式会社 M C J
代表者名 代表取締役社長兼 COO 安井 元康
(スタンダード市場 コード番号: 6670)
問合せ先 経営企画室 広報 IR 担当
ir-otoiawase@mcj.jp

「JPX 日経インデックス 400」構成銘柄への再選定に関するお知らせ

当社は、このたび株式会社東京証券取引所及び株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っている「JPX 日経インデックス 400」の構成銘柄として、2022 年度に引き続き、4 年連続で 2023 年度（2023 年 8 月 31 日～2024 年 8 月 29 日）も選定されましたのでお知らせいたします。

本指数は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成され、日本企業の魅力を内外にアピールするとともに、その持続的な企業価値向上を促し、株式市場の活性化を図ることを目的として創生された株価指数です。

東京証券取引所（プライム、スタンダード、グロース）を主市場とする普通株式銘柄から選定された 400 銘柄で構成されます。

当社は今後も投資家の皆様のご期待に添えるよう、更なる企業価値向上を目指した事業運営に尽力してまいります。

「JPX 日経インデックス 400」の詳細につきましては、以下をご参照ください。
<https://www.jpx.co.jp/markets/indices/jpx-nikkei400/index.html>

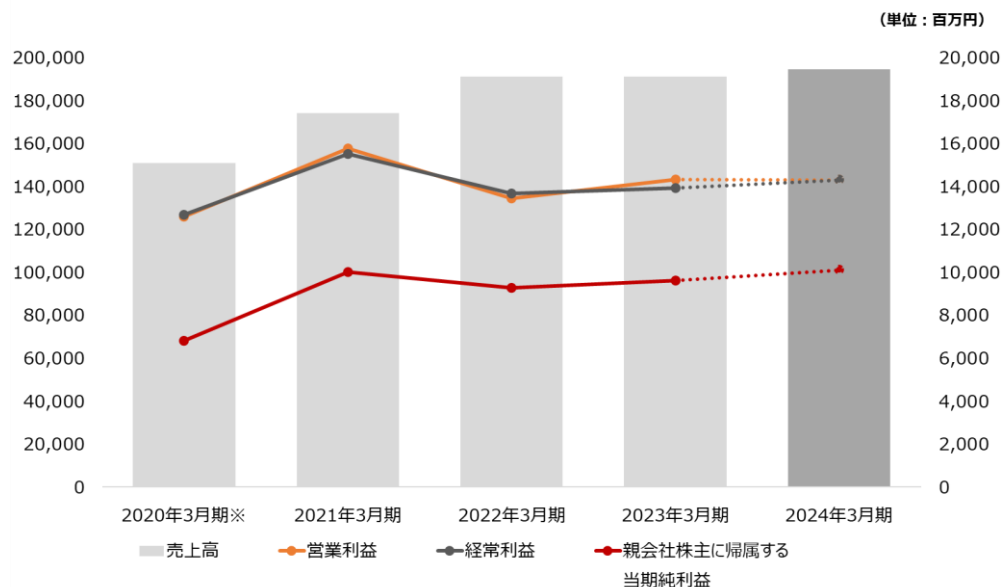
以上

1. 第2四半期連結業績報告	3 – 18
2. その他のトピックス	20 – 22
3. 通期見通し	24 – 26

2024年3月期 通期連結業績計画

上半期は期初予想を上回る実績も、
現時点においては期初発表の通期業績予想計画は修正せず

(百万円)	2020年3月期 [※]	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高	150,780	174,173	191,247	191,076	194,600
営業利益	12,595	15,758	13,435	14,318	14,300
経常利益	12,674	15,510	13,680	13,935	14,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,802	10,005	9,283	9,603	10,100



※ 上記表の2020年3月期は、不動産売却による一時収益による影響を除いております。

株主還元① 配当金について

2024年3月期の配当金予想は増収増益を見込むこともあり
前期比での増配継続を前提とする

	実績					予想
	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月	2024年3月期
年間1株当たり 配当金	20円50銭	23円50銭	31円00銭	32円00銭	33円00銭	34円00銭
配当性向	30.2%	30.6%	30.5%	33.9%	33.9%	33.3%

□ 2024年3月期1株当たりの予想期末配当金額は34円00銭と想定

» 前期比増配の継続を優先：**11期連続での増配**を見込む

株主還元② 株主優待制度について

2023年3月期株主優待実施例

① 1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択 + ②

<商品一例>

ゲーミングデバイスセット / 21.5型液晶ディスプレイ
パソコン工房1万円商品券 / 米沢牛すきやき肉
うなぎ蒲焼 / アイスセット / 日本酒セット 等

MCJ 2023年3月期 株主ご優待商品カタログ

●お申し込み期限 2023年7月31日(月)消印有効

数量限定 01 21.5型液晶ディスプレイ <i>ivama</i> ●プロジェクタ型ディスプレイ ●液晶パネルがガラスシールドで保護され、傷や汚れから守ります ●液晶パネルがガラスシールドで保護され、傷や汚れから守ります	数量限定 05 新米 雪意仕込 ツネアカリ ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 09 焼素 うなぎ蒲焼 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 13 中華合せ(N) ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産
数量限定 02 G-Tune メカニカルキーボード、ゲーミングマウスセット ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 06 米沢牛 すき焼肉 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 10 天然 本まぐろセット ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 14 リストラテ サバチゲ+青山アセット ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産
数量限定 03 1万円商品券 パソコン工房 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 07 札幌/リナイルム パラティセット ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 11 帝国ホテルキッチン カレーセット ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 15 OSMIC FIRST QUEEN トマトジュース 720ml ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産
数量限定 04 バーマート ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 08 富崎牛 ステーキ用 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 12 たいめいけん ロースビーフと 程中ハンバーグ ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産	数量限定 16 新潟県産の酒 数比べセット ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産 ●お米の産地は新潟県産

※06～16に限りは、ハガキ到着後3週間以内の在庫となります。

② 100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券
(500円×2枚)

MCJ 株主ご優待券 パソコン工房 GooWill

パソコンワンコイン診断サービス
1回無料利用券

見本

有効期限: 2023年7月31日



Appendix



- 商号** : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)
- 設立** : 1998年8月
- 代表者** : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
代表取締役社長兼COO 安井 元康
- 資本金** : 3,868,102,900円
- 従業員数 (連結)** : 3,686人 ※うち臨時職員1,406人 (2023年3月末)
- 発行済株式数** : 101,774,700株 (同上)
- 証券コード** : 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）
の拡充

コンテンツ・サービス分野
への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はV B 投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI



重要視するKPI	実績数値及び目標数値		
	2016年3月期実績	2022年3月期実績	中期経営計画期間における目標
営業利益率 <営業利益/売上高>	5.0%	7.0%	7%以上 連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
ROIC <NOPAT/事業性投下資本>	12.4%	19.0%	15%程度以上 資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定
ROE <当期純利益/期中平均株主資本>	13.0%	16.9%	
配当性向 <1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>	20.5%	33.9%	30%以上 下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
DOE <ROE×配当性向>	2.7%	5.7%	4.5%程度 成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定
総還元性向 <配当 + 自社株買>	20.5%	33.9%	30~40%程度 増配基調の維持を優先。株価水準等により自社株買を実施

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp

HP : www.mcj.jp

M

C

J

M

C

J

MCJ
HOLDING COMPANY